

ベバシズマブ+カペシタビン療法

⬇️ 大津赤十字病院 薬剤部

【治療スケジュール】

以下のメニューのおくすりを3週間毎繰り返します。

以下のメニューのおくすりを3週間毎繰り返します。				← 1クール →		
				第1日目	2～14日	15～21日
薬剤名	外観	液色	薬効	投与方法	点滴	点滴
① 生食注		無色	投与前の流しです。	↓ 全開・点滴	お休み	お休み
② ベバシズマブ注 [®] (ベバシズマブ)		無色	細胞増殖を抑えます。	↓ 30～90分・点滴		
③ 生食注		無色	お薬を洗い流します。	↓ 全開・点滴		
カペシタビン錠 [®] (カペシタビン)			細胞増殖を抑えます。	1日2回 14日間・内服 (第1日目夕より開始)		お休み

※お薬の投与速度・投与間隔が変わることがあります。
※また、症状に応じてお薬を変更・追加・削除することがあります。

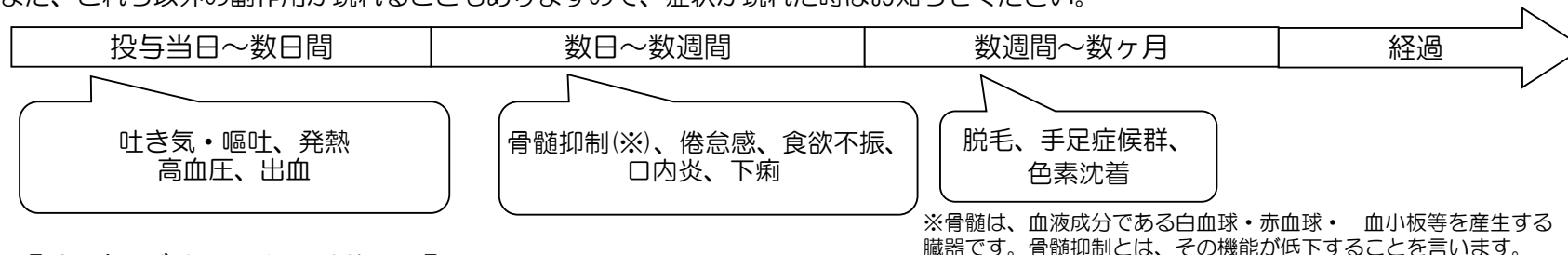
【注意事項】

点滴中は安静にし、注射の針を刺している部分が動かないように心掛けてください。
お薬が皮膚に漏れると、針を刺している部分に違和感や痛み、腫れ、赤み等が現れることがあります。
このような症状がありましたら速やかにお知らせください。
また、このような症状は点滴終了後や、しばらくたってから起こることがありますのでご注意ください。

血圧が高くなることもあるので、自宅でも家庭用血圧計を用いて、定期的に血圧をチェックしましょう。

【副作用と発現時期】

ここにはあくまで一般的に予想される副作用が、いつごろ現れるかをお示ししています。
これらの症状が必ず起こるということではありません。発現頻度・程度・時期には個人差があります。
また、これら以外の副作用が現れることもありますので、症状が現れた時はお知らせください。



【注意が必要な副作用】

頻度は高くありませんが、次に示すような副作用が報告されています。下記の症状が現れた時は医師または薬剤師へお知らせください。

- 骨髄抑制：★38℃以上の発熱、咳、下痢、排尿痛・残尿感、性器痛、肛門痛、鼻血、血便・血尿、歯茎出血、腕や足の赤い斑点、疲れやすい、めまい・息切れ
- 過敏症：★呼吸困難、じん麻疹、眼および口の周囲の腫れ、冷汗、頻脈
- 消化器症状：★突然の激しい腹痛、背部痛、重度の下痢、脱水症状、もたれ、胸やけ、吐き気、嘔吐、食欲不振
- 心障害：★呼吸困難、足などのむくみ、咳の増加、胸痛、みぞおちや頸部の締め付け、圧迫感、冷汗
- 腎障害：★顔・手足などのむくみ、尿量減少、尿が赤みを帯びる、体重減少、口の渇き、高度の蛋白尿
- 肝障害：★全身倦怠感、食欲不振、疲れやすい、腹部不快感、黄疸(皮膚や眼などが黄色くなる)
- 脳障害：★突然の激しい頭痛、意識障害、歩行時のふらつき、四肢末端のしびれ感、舌のもつれ、うまく話せない、けいれん発作、精神状態変化、視覚異常
- 肺障害：★胸痛、意識障害、呼吸困難、(空)咳、発汗、発熱、ピンク色の痰がでる、尿量減少、むくみ
- 下痢・脱水：★口の渇き、手足のふるえ、過呼吸、重度の下痢、意識障害(時に昏睡)
- 手足症候群：★手のひらや足の裏がぴりぴりする、指先の感覚異常、皮膚や爪の変色
- 血栓：★意識を失いそうになる、身体の麻痺、ろれつがまわらなくなる、激しいめまい、胸が痛んだり締め付けられるような感じ、足がむくんだり痛みが出る、突然の息切れ
- 高血圧：★我慢できない頭痛、気分が悪く吐き気がする、意識がもうろうとする、けいれん
- 出血：★口から血を吐く、血便、鼻血や歯肉、膣からの出血

連絡先 大津赤十字病院

TEL 077-522-4131

平日8:30 ～ 17:00 受診されている診療科

平日17:00 ～ 翌8:30 及び 休日 救急外来

皮膚症状に対する治療薬について



★以下のお薬は、皮膚の症状を予防するためのものです。
治療のお薬が始まったら、一緒に使い始めて下さい。

分類	医薬品名	用法用量
保湿薬	ヘパリン類似物質 [®] クリーム 	1日6回 手のひら・足のうらの保湿

★以下のお薬は、皮膚の症状が出てきたら使用して下さい。

分類	医薬品名	用法用量
ステロイド薬	アンテベート [®] 軟膏 	1日2回 手のひら・足のうらに 赤み・痛みが出た時

★お薬を使用する際の注意点

- 2種類の外用薬が処方されますので、使用部位や回数を間違えないようにしましょう。
- 外用薬を重ねて塗る場合、保湿薬→ステロイド薬の順番で塗りましょう。
- 別に医師の指示がある場合は、指示に従ってお薬をご使用ください。

外用薬の塗り方（単純塗布法）

★ポイント

- 外用薬を塗る時は、必ず手を洗いましょう。
- 狭い患部に塗る時は、指の腹部を使い、広い患部には手のひらを使います。
- お薬をすり込むのではなく、皮膚に刺激を与えないようにやさしく塗りましょう。

ステロイド薬

指の腹でお薬をとり、患部に薄く塗り広げるように塗ります。

保湿薬

手にとり、塗る部分に点在させます。指先ではなく、手のひらを使って、やさしく丁寧に、出来るだけ広い範囲に塗ります。

外用薬の塗布量

- 外用薬の塗布量を表す単位として[FTU]が使われています。
- 1FTUとは軟膏剤・クリーム剤は人差し指の先端から第一関節まで絞り出した量、ローション剤の場合は手のひらに1円玉大に出した量を表します。
- 1FTUで大人の手のひら2枚分に相当する面積を塗布することができます。

